

1. 病棟の具体的な目標と評価

1) 安全で質の高い看護を提供する

脆弱性骨折に対する多角的・多職種協働チームでは、医師、看護師、栄養士、作業療法士、理学療法士、薬剤師、歯科衛生士など他部門と合同カンファレンスを毎週月曜日に行っており、チームメンバーの看護師が交代で参加している。令和4年2月より脆弱性骨折チーム以外の看護スタッフも参加しており、病棟スタッフ全体の知識を向上していけるように今後も取り組みを継続する。

2) 病院経営に参画する。

病床稼働率 95.9%(前年度 97.5%)、病床利用率 89.1%(前年度 90.4%)、平均在院日数 14.8 日(前年度 13.5 日)、特別室稼働率 95.8(前年度 101.3%)、重症者室稼働率 95.8%(前年度 94.7%)であった。病床利用率 90%としているが、緊急入院に備えた空床確保も考慮した運用を引き続き行っていく。重症度、医療・看護必要度Ⅱは月平均 30%を維持でき、年間平均 38.5%であった。DPCⅢ期の患者については、合併症のコントロール不良などの理由で退院促進ができない患者が多かった。治療中から目途が立った時点での転院希望先などを確認し、早期に調整にかかれるように介入を行い、治療が完結後は早期に退院できるように調整を行っている。

3) 患者の視点に立った医療安全を推進する。

転倒転落による患者影響レベル 3b 以上事案が 2 件発生した。重大事案発生時には、看護師長、副看護師長でインシデントの事例検証会を企画し、ImSAFER を活用して病棟全体で分析・解決策を検討した。スタッフ運営による事例検証会は実施できなかったため、来年度の取り組みとしていく。

確認不足による薬剤のインシデントは 83 件で前年度より増加している。また褥瘡・MDRPU は d2 19 件、DTI8 件発生しており、病棟内での勉強会の実施や OJT を行ったが、減少には繋がらなかった。COVID19 感染症については、入院後に患者が濃厚接触者と判断された事案があったが、院内感染に拡大することはなかった。入院時緊急手術患者も多く、術後熱との判別が難しい事例も多いが、発熱患者については医師に報告し、早期に対応できるように取り組んでいる。

4) 専門職としての能力開発に努める。

看護研究については 1 例院内発表を行うことができた。院内ラダー研修については希望に応じ参加できるように調整を行った。院外研修については、NST 研修 2 名、認知症ケア研修 1 名、癌リハビリテーション研修 1 名参加した。しかし、全員の積極的な参加はできていないため、キャリア開発に繋がるような支援を今後行っていく。

4) 看護の先輩として学生に関わる。

実習満足度については病棟に関連する 9 項目全てで成人 I 全体の平均より高い結果であった。中間カンファレンス前に担当教員と打ち合わせを行い、方向性を統一したことで、効果的な運用に繋げることができた。

5) 活気ある職場、元気の出る職場づくりを推進する。

時間外勤務時間は年間平均 478 時間/月(前年度 380 時間/月)であった。平日日勤帯を 3 ペアでの補完体制の検討や、3 人夜勤体制の整備により、9 月以降は 430 時間/月以下を維持でき、11 月 286 時間/月であった。しかし、重症患者の増加により 1 月以降は 550 時間/月以上となった。リフレッシュ休暇は全員取得できた。年次休暇は年間で計画し、平均 8.2 日取得した。引き続きワーク・ライフ・バランスを意識した業務改善に取り組んでいく。

2. 病床運営状況

表 1 令和 3 年度 病床運営状況

収容可能 病床数(床)	診療科名	月平均		平均在院 患者数(人)	平均在院 日数(日)	病床 利用率(%)	病床 稼働率(%)
		新入院患者数 (人)	退院患者数 (人)				
48	腎臓内科 整形外科 泌尿器科 腎移植外科	76.2	99.3	42.8	14.8	89.1	95.9

重症加算病床		有料個室		死亡者数(人)
病床数(床)	稼働率(%)	病床数(床)	稼働率(%)	
4	95.8	6	95.8	16

3. 看護体制

表 2 令和 3 年度 看護体制 (令和 3 年 4 月 1 日現在)

配置人数(人)	看護方式	夜勤体制(準:深)
37	PNS [®]	4:3

4. 看護統計

1) 重症度、医療・看護必要度

表 3 令和 3 年度 一般病棟 重症度、医療・看護必要度 II

基準を満たす 患者の割合 (%)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
		39.6	31.5	36.9	38.9	41.2	42.1	39.3	33.4	35.5	39.2	42.2	43.0

2) 部署データ

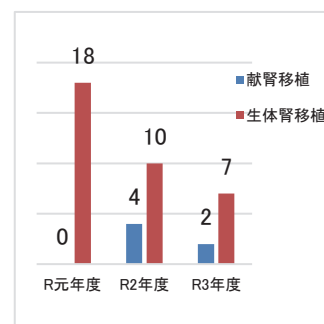
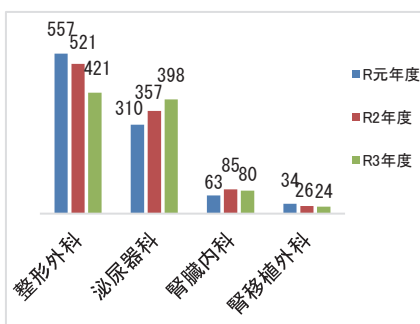
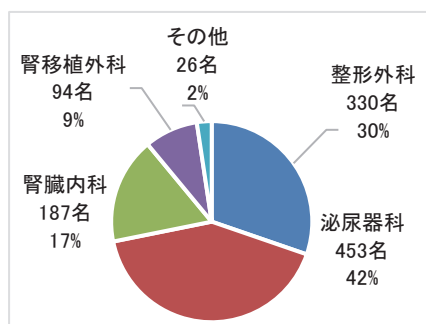


図 1. 診療科別入院患者数比較

図 2. 科別手術件数

図 3. 腎臓移植手術件数

表 4. 透析導入件数、パス使用件数

透析導入件数(件/年)	血液透析、腹膜透析
パス使用件数(件/年)	750(泌尿器科 449、整形外科 168、腎移植外科 62、腎臓内科 27、その他 44)